

VI 環境年表

時代	和暦	西暦	世の中の主なできごと◎ ※横浜の出来事は●	横浜の環境のできごと	環境分野の主なできごと
昭和	20	1945	◎ポツダム宣言受諾 ●横浜大空襲		
	22	1947	◎日本国憲法制定		
	24	1949	◎湯川秀樹がノーベル物理学賞 受賞 ●第4回国民体育大会会場として三ツ沢公園を開設 ●日本貿易博覧会		
	26	1951	◎サンフランシスコ講和条約調印 ●野毛山遊園地(後の動物園)開園		◎台湾リスが江ノ島から逃亡
	29	1954	◎ピキニで水爆実験、第五福竜丸が被曝 ●三溪園が横浜市に譲渡・寄贈される		◎掃除法(清掃法)制定
	30	1955			◎イタイイタイ病、学会に発表
	31	1956	◎日ソ国交回復 ●政令指定都市となる		◎水俣病の存在、保健所に初報告
	32	1957	◎日本が国連へ加盟 ◎東海村原子炉で初の臨界		
	33	1958	●開港 100 周年祭	●神奈川県事業場公害防止条例による苦情処理を開始 ●横浜市公園条例制定	◎下水道法制定 ◎水質保本法制定 ◎工場排水規制法
	34	1959	◎伊勢湾台風被害 ●現在の市庁舎完成		
	36	1961	◎世界初の有人宇宙船(ソ連) ●氷川丸 山下公園に係留 ●マリントワー完成	●衛生局公衆衛生課に公害担当者を配置 ●神奈川県事業場公害防止条例指定	◎農業基本法制定 ◎四日市でぜん息患者が多く発生 ◎レイチェル・カーソン「沈黙の春」出版
	37	1962	●中部下水処理場運転開始 ●港の見える丘公園開園		◎ばい煙規制法制定 ◎サリドマイド事件 ◎ベトナム戦争で米が枯葉剤作戦
	38	1963	●山下埠頭完成		
	39	1964	◎東京オリンピック開催 ◎東海道新幹線が開通し新横浜駅	●横浜市公害対策協議会設置 ●全国初公害防止協定を締結(電源開発磯子火力発電所) ●大気環境の常時測定開始	◎厚生省環境衛生局に公害課を設置
	40	1965	◎朝永振一郎がノーベル物理学賞受賞		◎新潟県阿賀野川下流域の「第二水俣病」を新潟県庁へ初報告
	42	1967			◎公害対策基本法制定
	43	1968	●人口 200 万人突破		◎大気汚染防止法制定 ◎カネミ油症事件
	44	1969	◎人類初の月面着陸(米国)		
	45	1970	◎万国博覧会開催(大阪)	●市議会に公害対策委員会設置	◎公害紛争処理法制定 ◎水質汚濁防止法制定 ◎廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)制定
46	1971		●神奈川県公害防止条例制定 ●廃棄物の処理及び清掃に関する法律制定	◎環境庁設置法制定 ◎廃棄物処理法制定 ◎「大気汚染防止法」の改正と「水質汚濁防止法」制定	
47	1972	●飯島・上郷・下永谷・三保市民の森を開設 ●こども自然公園を開設 ●市営地下鉄開通(上大岡～伊勢佐木長者町) 横浜市電廃止 ◎札幌オリンピック開催	●廃棄物の中間処理・最終処分の用地等の設定に関する指導要綱策定	◎国際連合人間環境会議(ストックホルム会議) ◎ローマクラブ「成長の限界」を発表 ◎自然環境保全法制定	
48	1973	◎オイルショック ◎山崎玲がノーベル物理学賞受賞	●横浜市公害被害者救済事業基金条例制定 ●緑の環境をつくり育てる条例制定 ●横浜市の環境目標を制定 ●有害物質を含む産業廃棄物の処分方法に関する指導要綱施行		

時代	和暦	西暦	世の中の主なできごと◎ ※横浜の出来事は●	横浜の環境のできごと	環境分野の主なできごと
昭和	49	1974		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市鉄道公害検討委員会が鉄道騒音及び振動に係る目標値設定 ●横浜市公害健康被害認定審査会条例制定 ●横浜市公害健康被害診療報酬審査会条例制定 ●横浜市公害被害者保護規則制定 	
	50	1975		<ul style="list-style-type: none"> ●光化学スモッグと悪臭公害の起因物質である炭化水素系物質の蒸発・揮散を防止する指導要綱施行(57年11月「横浜市炭化水素系物質対策指導要綱」に改訂) ●横浜市硫酸酸化物及びばいじん対策指導要綱施行 ●横浜駅周辺地盤沈下対策指導要綱施行 ●生物指標と水質達成目標を策定 	◎水質汚濁に関する総量規制検討委員会設置
	51	1976		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市公害研究所(現、環境科学研究所)の開所 ●横浜市工場騒音測定指導要綱施行 	
	52	1977		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市窒素酸化物対策指導要綱施行 ●横浜市公害健康被害者保護事業に係る寄付金の拠出に関する契約を締結 	
	53	1978	<ul style="list-style-type: none"> ◎新東京国際空港(成田空港)が開港 ●横浜スタジアム開設 ●大通り公園、根岸森林公園を開園 	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物の処理用地等の設定に関する指導要綱施行 	
	54	1979	<ul style="list-style-type: none"> ●こども自然公園内に万騎が原ちびっこ動物園開園 	<ul style="list-style-type: none"> ●東京湾岸の六都県市により「東京湾二次汚濁問題広域連絡会」が発足 	◎エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)制定
	55	1980		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市合成洗剤対策に関する方針策定 ●横浜市環境影響評価指導指針策定 ●環境庁と東京湾岸の六都県市により東京湾富栄養化対策連絡会発足 	◎ラムサール条約第1回締約国会議(カリアリ)
	56	1981	◎福井謙一がノーベル化学賞受賞		
	57	1982	●金沢動物園開園	<ul style="list-style-type: none"> ●悪臭対策の暫定指導基準施行 ●東京湾富栄養化対策指導指針を策定 	
	58	1983	◎日本海中部地震		
	59	1984	<ul style="list-style-type: none"> ●11の下水処理場全て稼働 ●下水道普及率60% 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市生活系排水及び小規模事業所排水対策推進要綱施行 ●相模湾富栄養化対策指導指針を策定 	◎ラムサール条約第2回締約国会議(フローニンゲン)
	60	1985	<ul style="list-style-type: none"> ◎つくば科学万博開催 ●人口300万人突破 	<ul style="list-style-type: none"> ●産業廃棄物処理指導計画策定 ●新横浜駅及び戸塚駅周辺地盤沈下対策指導要綱施行 ●公害防止協定の魚類指標による暫定排水評価指針策定 	
	61	1986	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市自然観察の森を開設 ●コアラが金沢動物園に来園 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市トリクロロエチレン等に関する指導要領策定 ●横浜市環境基本憲章策定 ●横浜市環境管理計画策定 ●横浜自然観察の森条例制定 ●横浜市工場等跡地土壌汚染対策指導要綱施行 	◎チェルノブイリ原子力発電所事故 ◎伊豆大島三原山噴火
62	1987	<ul style="list-style-type: none"> ◎利根川進がノーベル医学・生理学賞受賞 ●寺家ふるさと村開村 	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市自動車公害防止計画策定 ●公害対策局に自動車公害対策担当設置 ●横浜市自動車公害防止計画推進協議会設置 	◎オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書採択 ◎ラムサール条約第3回締約国会議(レジャイナ)	
63	1988	●海の公園を開設	<ul style="list-style-type: none"> ●アスベスト(石綿)使用建築物の改修・解体工事暫定指導指針施行 ●横浜市動物園条例制定 		

資料

時代	和暦	西暦	世の中の主なできごと◎ ※横浜の出来事は●	横浜の環境のできごと	環境分野の主なできごと
平成	元年	1989	●横浜アリーナ・横浜美術館オープン ●金沢シーサイドライン・ベイブリッジ開通 ●市政 100 周年・開港 130 周年記念式典横浜博覧会開催 ●「市の花バラ」制定	●産業廃棄物処理用地の設定等に関する指導要綱施行 ●横浜市公共用水域の水質事故対策要綱施行 ●産業廃棄物の処分に関する指導要綱施行 ●平潟湾水質保全計画作成	
	2	1990		●鶴見川水系河川環境管理計画策定 ●横浜市環境保全基金条例制定	◎ラムサール条約第 4 回締約国会議 (モントルー)
	3	1991	◎湾岸戦争勃発	●産業廃棄物処理指導計画」第 2 次計画策定 ●産業廃棄物中間処理施設管理指針 (建設廃棄物編)」作成 ●先端技術産業からの環境汚染を未然に防止するため「横浜市先端技術産業環境保全対策暫定 指導指針」を策定	◎再生資源の利用の促進に関する法律 (リサイクル法) 制定 ◎廃棄物処理法改正 (マニフェスト制度の導入)
	4	1992	◎バブル経済崩壊 ◎環境と開発に関する国際連合会議 (地球サミット) にてアジェンダ 21 採択 ●舞岡公園を開設	●横浜市環境保全施策基本構想検討委員会設置 ●横浜市環境保全活動推進委員会設置 ●環境保全活動助成制度の発定 ●横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例制定	◎国連環境開発会議 (ブラジル・リオ) 開催 ◎自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法 (自動車 NOx 法) 制定 ◎特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律制定
	5	1993	◎Jリーグ開幕 ●八景島開設 ●栽培収穫体験ファームを開設 ●横浜ランドマークタワー完成	●横浜市地盤沈下対策指導要綱施行 ●横浜市産業廃棄物処理用地の設定等に関する指導要綱一部改正 ●横浜市エネルギービジョン策定	◎環境基本法制定 ◎ラムサール条約第 5 回締約国会議 (釧路)
	6	1994	●環境中のアスベスト濃度測定開始 ●ヒートアイランド研究に着手	●横浜市水環境計画ゆめはま水環境プラン策定 ●横浜市フロン対策検討委員会設置 ●横浜市環境審議会設置 ●横浜市廃棄物跡地利用に係る指導要綱施行	
	7	1995	◎阪神淡路大震災 ◎地下鉄サリン事件 ●ダイヤモンド・グレース号事件 (東京湾タンカー油流出事故)	●横浜市環境の保全及び創造に関する基本条例施行 ●横浜市地盤沈下対策指導要綱改正・施行 ●横浜市環境影響評価要綱施行 ●横浜市開発事業等の計画の立案に係る環境面からの調整等に関する要綱施行 ●横浜市窒素酸化物対策指導要綱改正 ●横浜市硫黄酸化物及びばいじん対策指導要綱改正 ●横浜 市炭化水素系物質対策指導要綱改正 ●小規模固定型内燃機関に係る横浜市窒素酸化物対策指導 基準改正 ●アスベスト (石綿) 使用建築物の改修・解体工事指導指針改正 ●悪臭対策の暫定指導基準改正 ●横浜市工場跡地土壌汚染対策指導要綱改正・施行 ●横浜市生活系排水及び小規模事業場排水対策推進要綱改正・施行	◎生物多様性国家戦略を決定 ◎陸上活動からの海洋環境の保護に関する世界行動計画 (GPA) を採択 ◎容器包装リサイクル法制定
	8	1996		●横浜市音環境配慮指針 (やすらぎとつるおいのある音環境をめざして) 策定 ●横浜市産業廃棄物処理指導計画第 3 次計画策定 ●横浜市地域冷暖房推進指針」施行 ●横浜市硫黄酸化物及びばいじん対策指導要綱改正 ●横浜市先端技術に係る環境保全対策指導指針施行 ●横浜市環境管理計画策定	◎ラムサール条約第 6 回締約国会議 (プリズベン)

時代	和暦	西暦	世の中の主なできごと◎ ※横浜の出来事は●	横浜の環境のできごと	環境分野の主なできごと
平成	9	1997	●舞岡ふるさと村開村 ●横浜国際総合競技場竣工 ●経団連環境自主行動計画策定	●横浜市緑の基本計画策定 ●深夜営業騒音対策ガイド策定 ●横浜市化学物質適正管理指針施行 ●横浜市焼却炉ばい煙等対策指導要綱施行 ●横浜市における七都県市指定低公害車購入要領制定	◎ COP3 (京都) 開催にて京都議定書を採択 ◎ 環境影響評価法制定
	10	1998	◎長野冬季オリンピック	●横浜市自動車公害防止計画策定 ●環境エコアップマスタープラン策定 ●横浜市環境保全行動計画～市役所の環境保全に向けた自主的な取組～を策定・実施 ●横浜市生活系排水及び小規模事業場排水対策推進要綱改正・施行 ●横浜市廃棄物処理施設生活環境影響調査専門委員会設置要綱施行 ●横浜市産業廃棄物処理用地の設定等に関する指導要綱改正 ●横浜市ダイオキシン類・環境ホルモン等調査検討委員会設置要綱施行	◎神奈川県生活環境の保全等に関する条例施行 ◎ COP4 (フエノスアイレス) 開催 ◎ 環境庁「環境ホルモン戦略計画SP EED' 98」発表 ◎ 地球温暖化対策の推進に関する法律制定 ◎ 家電リサイクル法制定
	11	1999	●横浜動物園ズーラシア開園 ●横浜市繁殖センター開所	●横浜市環境影響評価条例施行 ●水環境マスタープラン策定	◎ COP5 (ボン) 開催 ◎ ラムサール条約第7回締約国会議(サンホセ) ◎ ダイオキシン類対策特別措置法制定 ◎ 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律制定
	12	2000	◎沖縄サミット開催 ◎白川英樹がノーベル化学賞受賞	●平潟湾水環境保全計画策定 ●横浜市生活系排水及び小規模事業場排水対策推進要綱」改正・施行 ●横浜市ダイオキシン類・環境ホルモン等調査検討委員会設置要綱改正・施行	◎ COP6 (ハーグ) 開催 ◎ 循環型社会形成推進基本法制定 ◎ 食品リサイクル法制定 ◎ グリーン購入法制定 ◎ 建設リサイクル法制定
	13	2001	◎米国で同時多発テロの発生 ◎野依良治がノーベル化学賞受賞 ●横浜トリエンナーレ 2001 開催	●横浜市産業廃棄物処理指導計画第4次計画策定 ●横浜市地球温暖化対策地域推進計画策定 ●横浜市動物園条例改正	◎ COP7 (マラケシュ) 開催 ◎ NOxPM 法制定 ◎ ポリ塩化ビフェニル (PCB) 廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法制定 ◎ 環境省発足
	14	2002	◎小柴昌俊がノーベル物理学賞受賞 ◎田中耕一がノーベル化学賞受賞 ●サッカーワールドカップ横浜で開催 ●赤レンガ倉庫オープン	●横浜市グリーン購入の推進に関する基本方針策定 ●横浜市廃棄物焼却施設の解体工事におけるダイオキシン類等汚染防止対策指導指針施行 ●横浜市地球温暖化対策地域協議会設立 ●横浜市生活環境の保全等に関する条例制定	◎ 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (第2回地球サミット) ◎ COP8 (ニューデリー) 開催 ◎ ラムサール条約第8回締約国会議(バレンシア) ◎ 京都議定書批准 ◎ 温暖化対策法改正 ◎ 新エネルギー発電法制定

時代	和暦	西暦	世の中の主なできごと◎ ※横浜の出来事は●	横浜の環境のできごと	環境分野の主なできごと	
平成		15	2003		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市工事に伴い排出する建設副産物の処分要領」改訂 ●横浜市役所地球温暖化防止実行計画策定 ●横浜市自動車公害防止計画5か年の事業計画(2002～2006)策定 ●横浜市生活環境の保全等に関する条例」施行(16年7月条例改正・施行) ●エコハマ温暖化防止アクションプラン策定 ●横浜市ISO環境マネジメントシステム環境方針策定 ●神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づくディーゼル車運行規制実施 ●横浜G30行動宣言 ●インドネシア政府林業省とのカンムリシロムク ●野生保護事業開始 ●野毛山動物園でゾウのハマコが死ぬ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎COP9(ミラノ)開催 ◎土壌汚染対策法施行 ◎自然再生推進法施行 ◎環境教育推進法公布 ◎使用済自動車の再資源化等に関する法律施行 ◎PCB廃棄物収集運搬ガイドライン制定 ◎環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律一部施行
		16	2004	●みなとみらい線開通	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市環境管理計画改訂 ●横浜市公園条例改訂 ●横浜市生活環境の保全等に関する条例改訂 	<ul style="list-style-type: none"> ◎COP10(ブエノスアイレス)開催 ◎ヒートアイランド対策大綱の決定
		17	2005	◎愛知万博「愛・地球博」開催 ◎マンション耐震偽装問題の発覚 ●横浜トリエンナーレ 2005 開催	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市環境教育基本方針制定 ●横浜市環境と地域経済の融合推進方針制定 ●横浜市環境影響評価条例規則一部改正 ●土壌汚染対策法に基づく汚染土壌浄化施設認定要綱施行 	<ul style="list-style-type: none"> ◎COP11・COP/MOP1(モントリオール)開催 ◎ラムサール条約第9回締約国会議(カンパラ) ◎京都議定書発効 ◎自動車リサイクル法施行
		18	2006		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市環境の保全及び創造に関する基本条例改訂 ●横浜市地球温暖化対策地域推進計画改訂 ●市役所、全区役所及び環境科学研究所においてISO14001認証取得 ●横浜市水と緑の基本計画制定 ●環境と地域経済推進方針制定 	<ul style="list-style-type: none"> ◎COP12・COP/MOP2(ナイロビ)開催 ◎石綿被害者救済法公布
		19	2007		<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市役所地球温暖化防止実行計画改訂 ●ハマウイング完成 ●150万本植樹行動開始 	◎COP13(バリ)開催
		20	2008	◎小林誠がノーベル物理学賞受賞 ◎益川敏英がノーベル物理学賞受賞 ◎南部陽一郎がノーベル物理学賞受賞 ◎下村脩がノーベル化学賞受賞 ●横浜トリエンナーレ 2008 開催	<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市脱温暖化行動方針(CO-D O 30)策定 ●環境モデル都市に選定 ●緑化地域制度の制定 ●ウガンダ共和国との野生動物繁殖技術協力事業開始 	<ul style="list-style-type: none"> ◎COP14/MOP4(ポーランド)開催 ◎ラムサール条約第9回締約国会議(昌原市) ◎温暖化対策法改正 ◎省エネ法改正